

「私がCIOとして実践してきた事」

--- 愛と感動を目指した『LQ・IT改革』 ---

ラブリーQueen株式会社
専務取締役 井上 真典



会社概要

- 社名: ラブリーQueen株式会社
- 本社所在地: 岐阜県岐阜市加納寿町
2丁目5番地
- 設立: 昭和39年2月
- 従業員数: 1295人
(社員: 225名、ファッションアドバイザー: 1070人)
- 事業内容: レディースファッションの
企画・製造・販売



- 販売先: GMS、百貨店
(650店舗のコーナー)
専門店、SPAショップ、その他
- 売上: 128億(2007年5月期実績)

経営理念

美しいファッションを見つめて

Focus on Lovely Fashion

美しいファッションを見つめて

Wellness Human Group

夢と生きがいのある人間集団

Think And Challenge Together

創意工夫し目標に向かって挑戦

Excellent Company

高能率、高収益、高賃金企業



長期ビジョン チャレンジ21 パート

意識改革:「お客様第一主義」「顧客の創造」

構造改革:「全社(社員・ブランド・会社)の品位・品格」

業務改革:「LQ・IT改革」「店頭ITの仕組み」

社会貢献:「社会的責任」「社会貢献」

『**愛**と**感動**のラブリーQueen』
実現目指して、挑戦します。

これまでのIT化の主な歴史

- 19XX ~
: 基幹システム(販売・物流)を自社開発 / 運用
- 1996 ~ 98
: 生産管理システム「QRS」構築で**失敗**
- 2001 ~ 2002
: 新基幹システム(オープン系へ)構築で**失敗**
- 2003 ~
: **ITの専門家との出会い**

システム構築ありき
現状ありき

IT化における方針の転換

- 2004
: 新基幹システム構築が要件定義で**失敗 / 中止**
- 2005 ~
: 店頭ITシステム「ハッピーフォーカス」**構築 / 運用中**
- 2007 ~
: 基幹システム(販売・物流) **リニューアル中**



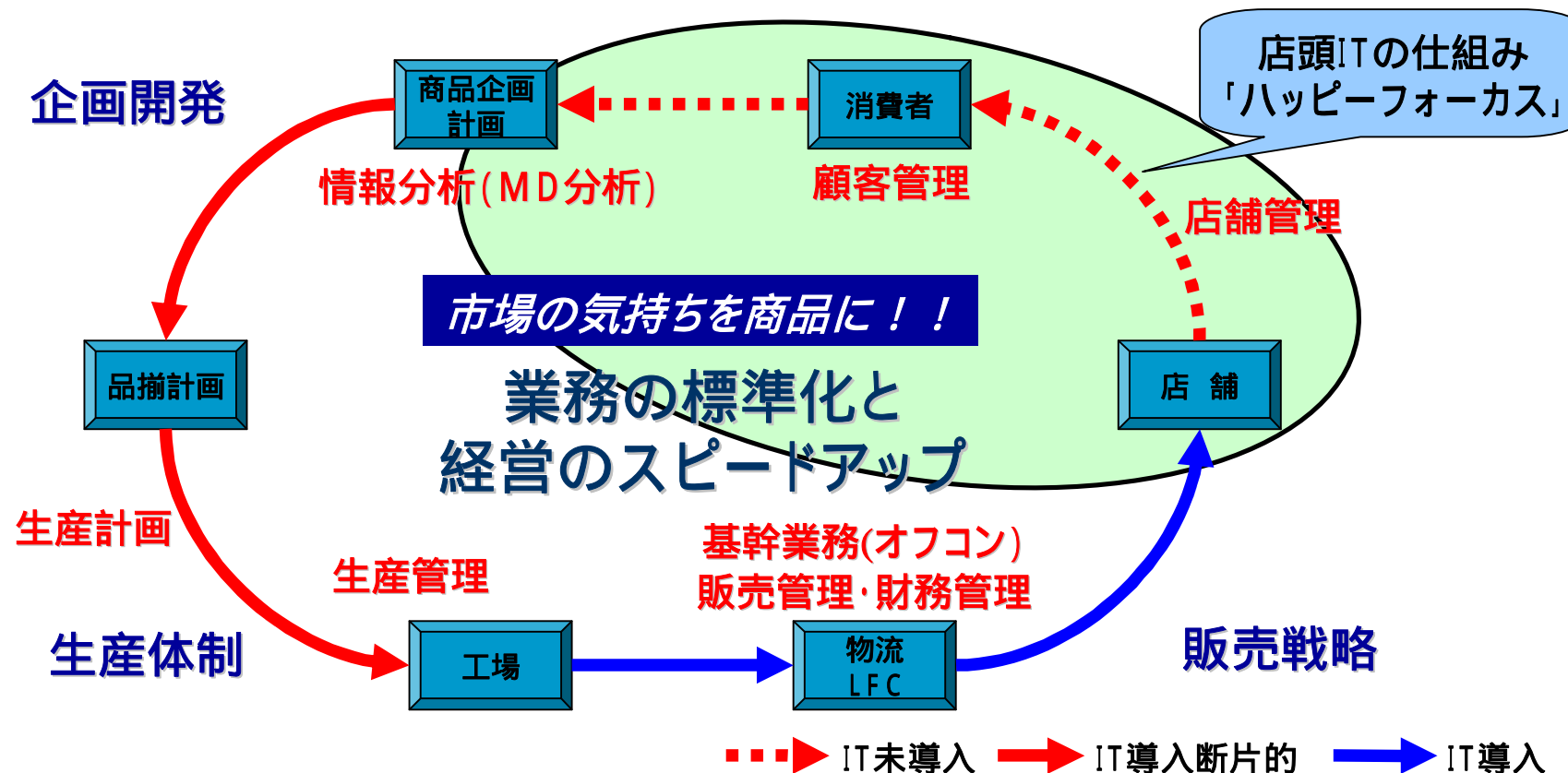
IT化における方針の転換

1. まず、社内業務の標準化を徹底的に行う。
2. 現場レベルまできちんと落とし込んだ業務改革を行う。
3. ITの導入は、業務の標準化が実施されてスリム化されたところを見計らい、検討を再開する。
4. IT化を検討する時は「あるべき姿」に則り、「経営課題」および「経営革新」を解決させることを目的とする。
5. リーダーシップによる全社員一丸となった取り組みが必要である。
6. メーカーにとらわれない、客観性のあるIT化推進パートナーにより、我流ではなく、業界ノウハウやIT技術を経営に役立つようにサポートしてもらう。

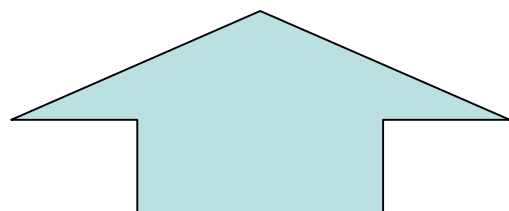
「あるべき姿」のITモデル策定(2004年当時)

ITモデルの重点ポイント

お客様重視の観点に立って、商品力・企画力をアップするには、店頭・顧客情報の収集と分析力の向上が必要不可欠。

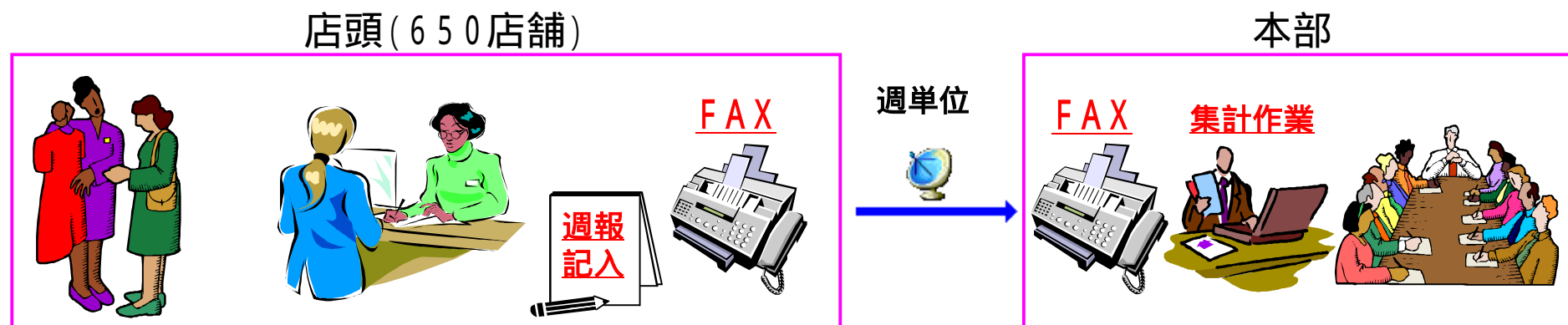


店頭ITの仕組み「ハッピーフォーカス」



IT導入による効果

1ヶ月で約14,000時間の作業削減効果
「生きた情報」の蓄積(お客様のニーズや店頭在庫等)



「私がCIOとして実践してきた事」

社員のベクトルを同一方向へ向かせること

- ・目的を見失わない
- ・横道に反れない(遠回りしない)

当社に見合ったIT投資額での実現

- ・決して無理をしない
- ・後戻り可能なIT化
(使い物にならなかつたら、捨てることのできるくらいの手軽さ)
- ・反面、「安物買いの銭失い」に注意

課題解決に対する迅速な意思決定

- ・課題を棚上げにしない
- ・課題解決を現場任せにしない

社員のベクトルを同一方向へ向かせること

社員への動機付けと目的の浸透

- 全従業員に経営理念・方針と共に、IT導入の目的をトップ自ら、場あるごとにメッセージを発信
 - なぜ、そのITを導入するのか？
 - どんなメリットがあるのか？
- 従業員の満足を考慮したITの導入
 - 従業員にとって、使いやすいITであるか？
 - 従業員の意見をITへ反映！
(決して「現場ありき」ではなく、「現場レベル」への落とし込み。)



「全社員一丸」となった取り組みに発展

当社に見合ったIT投資額での実現

かける

× 650の恐怖

端末に何を選ぶにせよ、(1端末単価×店舗数)の投資となる。

・POS ・ノートパソコン ・PDA端末 ・携帯電話

「携帯電話」の採用

投資額の拡充

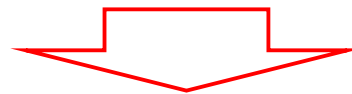
- ・ 中小企業経営革新等対策費補助金(経済産業省、中小企業庁)
【IT活用型経営革新モデル事業】へ応募。
- ・ 平成16年度、17年度に応募し、17年度に採択。
- ・ 補助対象経費の2分の1以内で補助金交付。(上限3000万まで)

「公的支援」の活用

課題解決に対する迅速な意思決定

「変化・変革」の後押し

- トップダウンによるスピード化
 - 「現状ありき」に基づく異論を排除し、「現状ありき」に戻らない。
 - 良い案を埋もれさせない。(検討のみに止まらない)
 - 結論の出ない検討会の排除。(必ず結論を出す(出させる))
 - 部門間の検討調整時間の短縮。
- 「ゼロベース」思考で、「業界の良い仕組み」を注入
 - 我流からの脱却。
(良い物は積極的に仕組みに組み込む。)
 - 「あるべき姿」を浮かべながら、IT導入の目的を忘れない。



経営戦略に沿った業務プロセスの改善・再構築の
「促進・スピードアップ」

まとめ「私がCIOとして実践してきた事」

社員のベクトルを同一方向へ向かせること

- ・目的を見失わない
- ・横道に反れない(遠回りしない)

当社に見合ったIT投資額での実現

- ・決して無理をしない
- ・後戻り可能なIT化
(使い物にならなかつたら、捨てることのできるくらいの手軽さ)
- ・反面、「安物買いの銭失い」に注意

課題解決に対する迅速な意思決定

- ・課題を棚上げにしない
- ・課題解決を現場任せにしない



“客観性のあるIT化推進パートナー”のサポート